

います。やはり、父のあとをつぐため明治六年に須賀川医学校に入り、のちに有名な政治家となる後藤新平ごとうしんぺいたちといっしょに勉強しました。

長安は、医学校を卒業すると村に帰り、お医者さんになりました。しかし、そのころの政治は、明治維新いしんをなしとげた少数の人でおこなわれ、地方の人々の声はなかなか政府にとどきませんでした。

そのため、高知県の板垣退助いたがきたいすけたちは、議院をつくる運動をはじめ、長安もまた、河野広中こうのひろなか（田村郡三春町に生まれ、のちに農商務大臣、衆議院議長となる。）を中心に政治運動の団体をつくりました。その団体は石陽社せきやうと名づけられました。

人間がもって生まれた自由と権利を人々にめぐめさせ、民主主義による政治をおこなわせようとしたのです。

この運動は東日本では一番早く、福島県議会もよその県より一年早い一八七八年に開かれました。一八八〇年には国会を開くよう願いが出され、つぎの年には一八九〇年になってから開くことが約束されました。そこで、自由主義や民主主